

「投資家行動と行動ファイナンス理論」

俊野 雅司

(株)大和ファンド・コンサルティング

行動ファイナンスは、バブルの発生メカニズムの解明など、証券価格の形成過程に関する研究分野への応用が期待されているが、投資実務におけるもっと幅広い領域への応用も可能である。

売買タイミングの決定や商品の選択などの際に、投資家は最適でない行動を示すことがあると指摘されるが、「プロスペクト理論」や「心理的勘定の設定」など行動ファイナンス上の概念を用いて、その背景をある程度理解することが可能である。このようなメカニズムを認識しておくことによって、証券投資に関する意思決定プロセスの改善を図ることが期待できる。

一方、商品の提供者側の立場では、投資家が購入しやすくなるような商品の設計を試みることも可能である。行動ファイナンスの概念を用いて、投資意欲を引き出すような商品の特徴や商品の提示方法について、考察を行う。